

# 被災者の痛みに寄り添う県政を求めて

## 遠藤 いく子 県議会議員

安倍内閣の暴走と国民との矛盾が深刻化する中で、また大震災から6年という中で開かれた県議会でした。

7回目の3月11日、悲しみとつらさを抱えて生きる被災地の現状が映し出されてきました。それなのに来年度の当初予算では、被災者が切望していた医療・介護の免除措置を県は冷たく切り捨て、市町対応はバラバラになりました。75歳以上の後期高齢者も免除から外されています。また震災遺児・孤児に手渡される育英基金は、一人あたり金額を隣の半分程度に抑制して、今年度拡充した県事業に寄附額の6割を充てる逆立ちぶりです。県事業は通常予算で行うべきです。復興基金の使い方も、宮城県は住まい応援に、1.3%しか充てておらず、基金の6割超を充当した若手との違いが鮮明です。また私学助成は、国予算をただ



流すだけで、県独自の乗せが来年度も全くありません。また県が責任を持つべき結核医療を栗原市に押しつける予算を計上。その一方で、来年度4台しか納車のない燃料電池自動車関連に3.8億円の支援、企業立地奨励金は来年度だけでトヨタに5億円を準備、県がベンチャー企業支援として出資した2億円の8割を債権放棄、「みやぎの豊洲では？」という声もある広域防災拠点の公共補償を81億円と算定し、その内の19億円が来年度分支出されます。

私は、最終日の討論にたち、どこがなぜ賛同できないかを一つ一つ示しながらその転換を求め、最後に「真の復興とは、被災者の痛みに寄り添うことを基本姿勢とすべきであり、県政運営の基本としても貫くべき」と主張しました。

## 2月定例県議会(第359回)を終えて

2月17日に開会した2月定例議会が、3月16日に閉会しました。

本議会は、安倍政権の暴走政治と国民との間の矛盾が深化するもと、また震災から6年目を迎える中で開かれました。

党県議団は、暴走政治ストップ、「富県戦略」と「創造的復興」で被災者・県民を置き去りにする村井県政の諸問題を明らかにし、積極的に論戦しました。

### 1、議案の賛否について

今議会には、138の議案が提出されました。党県議団は、予算議案や蒲生干潟にかかる七北田川の河川堤防、雄勝の防潮堤2件など全部で29議案に反対をしました。

### 2、意見書・請願等について

#### (1) 意見書について

① 指定給水装置工事事業者への更新制の導入等を求める意見書 ② 無料公衆無線LAN(Wi-Fi) 環境の整備促進を求める意見書 ③ 今後の通

商交渉に関する意見書 ④ 政治分野への男女共同参画を推進するための法整備を求める意見書 ⑤ 性犯罪等被害者を支援するワンストップ支援センターの設置等を求める意見書

⑥ 高齢者も若者も安心できる年金制度の実現を求める意見書 ⑦ 復旧・復興事業の総仕上げのための人材確保を求める意見と見書の、7本の意見書が本会議に提案され、全会一致で可決されました。党県議団は、③と⑦を提案しました。

#### (2) 請願について

「被災者に医療・介護の負担免除継続を求める請願」が本会議にかかり、わが党県議団とみやぎ県民の声が発せられました。この請願には、わが党議員団とみやぎ県民の声、社民党県議団、無所属の会の22名が賛成しましたが、自民・公明などの反対多数で不採択となりました。

#### (3) その他

閉会日に「北朝鮮による弾道ミサイル発射に抗議する決議案」を全会一致で採択しました。

### 所属する常任委員会・特別委員会



**大内 真理**  
(宮城野区)  
・保健福祉委員会  
・地域防災調査特別委員会



**角野 達也**  
(太白区)  
・文教警察委員会  
・地域活力調査特別委員会



**内藤 隆司**  
(大崎市区)  
・建設企業委員会  
・地域防災調査特別委員会



**中嶋 廉**  
(泉区)  
・環境生活農林水産委員会  
・大震災復興調査特別委員会



**福島かずえ**  
(若林区)  
・経済商工観光委員会  
・大震災復興調査特別委員会



**天下みゆき**  
(塩釜市区)  
・保健福祉委員会  
・いじめ・不登校等調査特別委員会



**三浦 一敏**  
(石巻・牡鹿区)  
・建設企業委員会  
・総合観光戦略調査特別委員会



**遠藤いく子**  
(青葉区)  
・総務企画委員会  
・地域活力調査特別委員会